

# 第113回 世界の人とふれあいタイム



アゼルバイジャン  
共和国の話  
カランタル カリル氏

日時：2024年10月27日(日) (14:00~16:00)  
会場：八王子市学園都市センター第5セミナー室  
(フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)

ゲストのカランタルさんは、来日44年目で八王子在住です。過去2回(2004年度と2015年度)ゲストとしてお迎えしてきました。北アゼルバイジャンは、黒海とカスピ海とに挟まれたコーカサス地方の南東部に位置する国家で、1991年のソ連解体に伴い、アゼルバイジャン共和国(Azərbaycan Respublikası)として独立しました。首都はバクーで石油採掘や、海底油田開発も行われてきています。



### カスピ海ヨーグルトのねばりのヒミツは「クレモリス菌FC株」

このヨーグルトにはとる〜とした独自の粘りがあり、この粘りは、善玉乳酸菌「クレモリス菌FC株」で、生きて大腸まで届き、私たちの体に有用な働きをしてくれることが学術的にも証明されています。



カスピ海ヨーグルトのふるさとは、世界でも名だたる長寿地域として有名なヨーロッパ東部のコーカサス地方に位置します。ヨーグルトを毎日食べている

と、健康に非常に良いそうです。

バクー中心部から車で30分程度の郊外(ピナガディン地区)に、ヤナルダー「燃える丘」を意味する場所があります。小高い丘の中心から湧き出す天然ガスが自然発火し、2000年もの間燃え続けていると言われています。



火と宗教

また約3000年前は、ゾロアスター教(火を大切に)が宗教で、お寺の聖職者は、口や鼻を覆うことで、神秘的な火に息がか

からないようにしていたそうです。

火にまつわる一番面白い習慣は、YeniGun,NOVRUZ”(3月20日・21日)と呼ばれる春のお祝いです。起源はゾロアスター教にまでさかのぼります。



アゼルバイジャンノヴルズ、春分の日、3月20,21日  
火にまつわる一番面白い習慣は“YeniGun,NOVRUZ”(3月20と21日)と呼ばれる春のお祝いです。  
起源はゾロアスター教(火を大切に)までさかのぼります。



火を飛び越える

“NOVRUZ”  
春分の前日の水曜日に、男の子たちは道や広場にたき火を作り、その炎を飛び越えます。

伝統では、火を飛び越えることによって、新年の幸運を招き入れ、過去の悪い年が遠くへ行ってしまうと言われています。

参考までに高尾山薬王院の火渡り祭では(毎年3月第二日曜日開催)、火をつけて燃やした薪炭の上を裸足で歩きます。

## 習慣



- 火は、アゼルバイジャンの結婚式に、昔から使われています。
- 火は、新婚さんの健康とこれからの生活がうまくいこうという願いを象徴しています。
- 花嫁が家を出るとき、時々火の周りを3回歩き、そして、家族とお別れします。



【アゼルバイジャンの楽器・文化・お正月】



【カフカズ】

【田舎の風景】



【毛氈タブリズ市：南アゼルバイジャンの首都】

### Ophrys caucasica

オフリシ・カウカシカアゼルバイジャン語ハリー・ゲルブル(Ozarbilbulb)は、コーカサス固有の顕花植物(けんかしょくぶつ)です。アゼルバイジャン全体の多くの地域で記録されています。Delforgeによると、種の全体的な分布は、北東アトリア(トルコ)の沿岸山脈から、西のトリアン(トルコ)から、おそらくカスピ海までの範囲です。アゼルバイジャンの国営メディアは、カラバフ地域の「公式の花」として取り上げています。

### 北アゼルバイジャンハリー・ゲルブル



オフリシ・カウカシカ



【愛おしいコーカサス固有の顕花植物】

(世界の人ふれあいタイム 委員長 生山 龍哉)  
※次回:2025年1月26日(日)はタイです。